但馬の蝶３題

永幡　嘉之

１．但馬海岸におけるホシミスジの化性に関する観察例

ホシミスジ *Neptis pryeri* は，但馬では海岸部と関宮町などの低山地とに局地的に分布している．

1994年は全般的に気温の高い年で，本種の幼虫の成長段階に興味がもたれたので，美方郡浜坂町城山で９月５日に調べてみた．食草はミツバイワガサである．

その結果，幼虫は食痕のある葉の先端をつづって巣を造り，中に潜んでいるものと，越冬巣と思われるものをつくっているものとに大別された．ただし，越冬巣と判断したものは，たまたま葉が小さいために巣の部分しか残らなかったものである可能性もあり，両者は本質的には異ならないのかもしれない．観察した数をまとめると，以下の通りである．

１）食痕のある葉の先端に造られた巣（図１）
　・幼虫がいた巣　39個
　・幼虫がいない巣　152個
２）越冬巣と思われるもの（図２）
　・幼虫がいた越冬巣　７個
　・幼虫のいない越冬巣　４個
３）葉上にいた幼虫　１頭

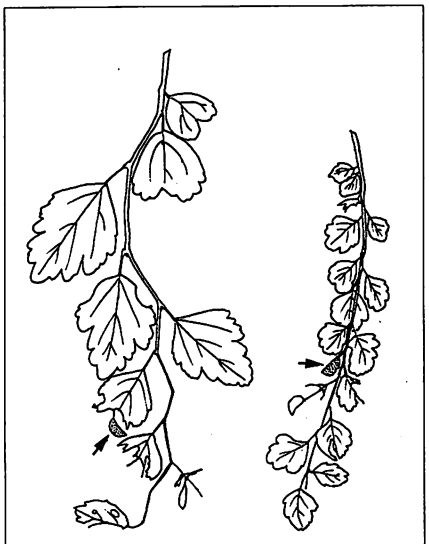

図１　図２

また１）の，葉の先端に造られた巣のうち，巣が緑色で新しいものは４例で，そのうち３例については中に幼虫がいた．他は褐変しており，幼虫が摂食を行っている様子はなかった．幼虫がいない巣のほうが多いが，すでに別の場所で越冬巣をつくっている可能性もある．また，幼虫が中にいたものについては，この後幼虫が別に巣を造るのかどうかなど，不明な点が多い．

近畿地方や中国地方の低山帯に分布する本種は，年に２回発生するといわれて

きた[1]．しかし，但馬に産するものは成虫の消長を追う限りでは，年に１化のようである．最近では山陰地方の本種が年１化であると明記した文献もある[2]．今回の調査でも，大部分の幼虫はすでに休眠状態に入っていると思われ，年１化を裏付けるものであろう．

1994年８月15日に，同所で飛翔中の本種の２化個体らしきものを目撃したが，静止することなく飛び去り，確認はできなかった．８月21日に再調査を行い，３頭を捕獲確認後放したが，いずれも傷みが激しく１化の生き残りと考えられた．気温の高い年に，例外的に２化が出現する可能性もある．今後，継続的な調査が必要である．

２．氷ノ山山頂でのツマグロヒョウモンの観察例

ツマグロヒョウモン *Argireus hyperbius* は，現在但馬で増加していることが注目されている．雄の飛翔力は強いようで，標高の高い山頂で見かけることもあるが，最近では扇ノ山上山高原（標高約900m）で雌を採集したことがあり（１♀，20-Ⅶ-1992），高標高地に雌が出現するようになったことは，分布の拡大を示す現象のひとつとして注目される．

1994年８月31日，養父郡関宮町氷ノ山山頂（標高約1500m）で，ヒヨドリバナを吸蜜に訪れるツマグロヒョウモンの雄を目撃した．正確な数は数えていないが，常に２～３頭が訪れていた．いずれも翅に傷みのないきわめて新鮮な個体であった．また，同じ場所で，雌に交尾を試みる雄を発見した．交尾は成立しなかったが，雌は羽化不全で翅がうまく伸びていない，新鮮な個体であった．

この観察例は，山頂で本種が発生した可能性を示唆するものであるが，幼虫は発見していない．冬季に積雪の多いこの地域で本種が越冬する可能性はまずないと考えているが，雌の飛翔力もかなり強いのではないだろうか．

氷ノ山の山頂付近は広くチシマザサに覆われているが，登山道の周囲にはニョイスミレが一面に生えている．今後，山地のこのような環境で発生するものかどうか注意を払っていきたい．

３．久斗山山系のゼフィルスの記録（続報）

筆者は本誌前号において，浜坂町久斗山山系で採集したゼフィルスの記録を報告した[3]が，本年も若干の採集を行ったので報告する．

美方郡浜坂町本谷（標高約350～450m）

ウラクロシジミ *Iratsume orsedice*
（1♂，2-Ⅵ-1994；1♂，15-Ⅵ-1994）6月2日にすでに雌も発生していた．
ミズイロオナガシジミ *Antigius atillia*
（1 ex.，15-Ⅵ-1994）
ウラキンシジミ *Ussuriana stygiana*
（1♂1♀，15-Ⅵ-1994）
オオミドリシジミ *Favonius orientalis*
（1♂，12-Ⅵ-1994；1♂，15-Ⅵ-1994）共に，14時～15時頃に活動中の個体を採集した．

採集したものは以上であるが，他に1994年6月2日に浜坂町本谷で夕刻活動中のフジミドリシジミと思われる種を目撃している．水色に輝きながら，ブナの梢上を活発に飛翔していたが，木が高く採集できなかった．久斗山山系にはブナとイヌブナが広く分布し，フジミドリシジミも広く分布していることが予想されるので，採集して確実な記録を出したい．

また，1994年6月7日には，城崎郡香住町余部市午のアセビ谷で，活動中の多くのウラクロシジミを目撃した．

これまで浜坂町本谷を中心に調査をしてきたが，香住町側や浜坂町中小屋のブナ林も面積が広く，今後調査してみたい地域である．

参考文献

1）福田晴夫ほか（1983）原色日本蝶類生態図鑑（Ⅱ），保育社，大阪．
2）淀江賢一郎（1994）ホシミスジ，山陰のチョウたち（山陰むしの会編）:107，山陰中央新報社，松江．
3）永幡嘉之（1994）浜坂町久斗山のゼフィルスの記録，IRATSUME18:43．